



東京都健康安全研究センター

くらしの健康

平成31年3月 第45号

目次

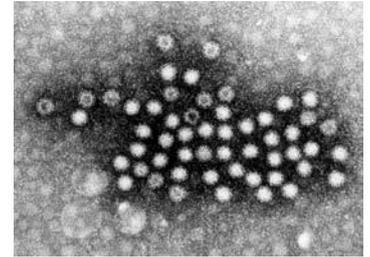
○ ノロウイルス感染症について

○ 花粉情報

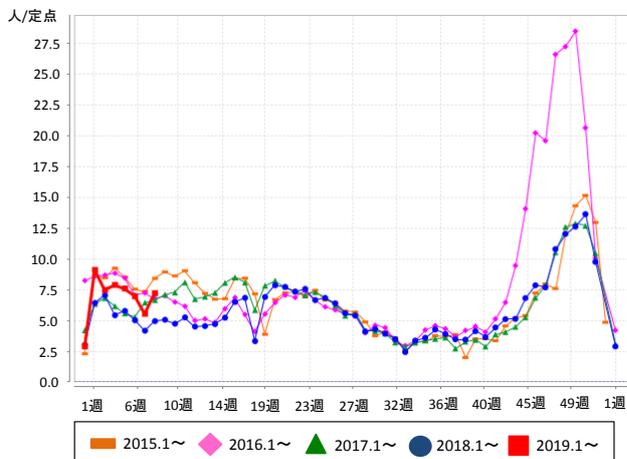
ノロウイルス感染症について

1. ノロウイルスとは

ノロウイルスは、食中毒や感染性胃腸炎の原因となるウイルスです。冬季を中心に年間を通じて患者の発生があります。感染すると、1～2日後に嘔吐や水様性下痢などの症状が出ますが、通常は発症後1～2日で症状は治まります。感染者の吐物や糞便中に大量のウイルスが排泄されるため、これらを介して感染が広がります。感染力は強く、100個以下の少量のウイルス量でも感染します。ノロウイルスの伝播には大きく2つあり、ノロウイルスに汚染された食品を食べることによって発症する「食中毒」と、ヒトからヒトに感染する「感染症」があります。特に、東京都においてノロウイルスによる食中毒は発生件数、患者数ともに多く、食中毒の主要な原因となっています。

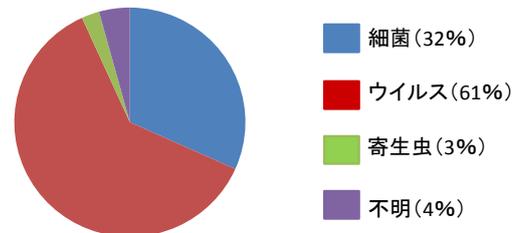


ノロウイルスの電子顕微鏡写真



感染性胃腸炎定点患者報告数
(2015～2019年、東京都)

総数 2,628人

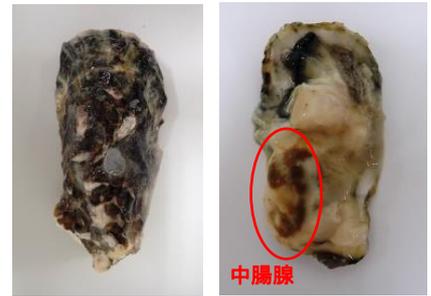


病因物質別食中毒患者数
(平成29年、東京都)

2. ノロウイルスによる食中毒

(1) カキなどの二枚貝の喫食

ノロウイルス食中毒の原因としてカキなどの二枚貝の喫食が多く報告されています。糞便中に排泄されたノロウイルスは、下水から河川、海へと運ばれ、ウイルスが拡散された海域の二枚貝の中腸腺に蓄積されます。カキの他にもアサリやシジミもウイルスを蓄積します。ノロウイルスを蓄積した二枚貝を生食、または加熱不十分の状態ですべて喫食することにより感染が成立します。



カキと中腸腺

(2) 調理従事者を介した感染

ノロウイルスに感染した調理従事者から食品を介した食中毒が近年増加しています。東京都における平成25年から平成29年のノロウイルス食中毒事例において、従事者を介したものが全件数の7割以上になっています。調理従事者が下痢や嘔吐などを発症した状態、あるいは感染していても症状がみられない状態(不顕性感染)で調理に従事し、調理従事者の手指等に付着したノロウイルスが食品に移行し、その食品を喫食することにより感染が広がります。また、症状が治まっても1週間から1ヶ月程は感染者からウイルスが排泄されるため、不十分な手洗いや消毒では二次感染につながる可能性があります。ノロウイルスは食品中では増殖しないので、汚染された手で食品に触らない、もしくは食品を加熱することが重要です(中心部 85~90℃で90秒間以上)。

汚染されやすい食品としては、サラダなどの非加熱製品が挙げられます。

ノロウイルス食中毒における発生要因
(平成25年~平成29年、東京都)

	カキ	従事者	その他	不明
件数	37	137	4	1
(%)	(21)	(76)	(2)	(1)

(3) 刻みのりによる食中毒事例

平成29年2月、東京都内において学校給食によるノロウイルスの食中毒が発生しました。東京都内の10校の小中学生等4,209名が給食を喫食し、1,193名が発症しました。患者と共通食の刻みのりからノロウイルスが検出されました。遺伝子解析の結果、患者と刻みのりから検出されたノロウイルスの遺伝子が一致したことから、刻みのりが原因食材であると推定されました。この刻みのりは同一施設で製造されており、感染していた従業員が刻みのりの加工作業を行っていました。その後の調査により、この刻みのりは平成28年12月に製造されており、2ヶ月程経過してから給食に使用され、一人あたりの食べた量は乾燥重量で約0.5gと推定されました。また、汚染された刻みのりは少なくとも4都府県に流通し、関連する患者数は2,000名を超える大規模食中毒となりました。このことからノロウイルスは乾燥中でも長期間感染性を保持し続けること、微量の喫食でも発症すること、さらに一人の感染者から大規模な食中毒事例に発展する可能性があることがわかりました。



実際に原因となった刻みのり

3. ヒトからヒトへの感染

ノロウイルスは感染者の吐物や糞便を介して飛沫感染や接触感染によりヒトからヒトへ感染します。特に、保育所や高齢者施設などで多発し、大規模な発生となる場合があります。

感染者の吐物が飛沫となって周囲に飛び散り、周囲の人が飛沫を吸い込んでしまうことで感染します。感染者の吐物や糞便が適切に処理されないと、乾燥して細かい粒子となって空気中に漂い、これを吸い込むことで感染する場合があります。

また、吐物や糞便に直接触れることや、感染者が汚染した手で触れた場所に他者が触れることでも感染します。特に、トイレの便座、水洗レバーやドアノブなどの手指が触れることの多い場所からはノロウイルスが検出されることがあります。



4. ノロウイルス感染症の予防

ノロウイルスは感染力が強く、環境中でも感染性を持ち続けます。有効なワクチンや抗ウイルス薬はないため、感染防止には以下の取り組みが重要です。

(1) 加熱

- ・ 中心部 85～90℃で 90 秒間以上の加熱で死滅します。特にカキなどの二枚貝はこの条件で十分に加熱してください。
- ・ 包丁やまな板などの調理器具を 85℃で 1 分間以上の熱湯につけることも効果的です。

(2) 手洗い

- ・ トイレの後や食事前などは石けんと流水で十分に洗いましょう。
- ・ 洗い終わった後はタオルの使いまわしを避け、ペーパータオルなどで水分をしっかりと拭き取りましょう。



(3) 消毒

- ・ ノロウイルスには酸やアルコール、逆性石けんはほとんど効果がありません。
- ・ ノロウイルスの消毒は、次亜塩素酸ナトリウム溶液(塩素濃度 200ppm 以上)が有効です。汚染されやすいトイレのドアノブや水洗レバー、水道の蛇口などを次亜塩素酸ナトリウム溶液で定期的に消毒した後、水拭きしてください。
- ・ 感染者の吐物等にはノロウイルスが大量に含まれているため、より高濃度の 0.1% (1,000ppm) 次亜塩素酸ナトリウム溶液を浸したペーパータオルをかけて 10 分間放置してから水拭きしてください。また、処理の際は吐物等には素手では触らず、必ず使い捨ての手袋やマスクを着用し、十分に換気をしながら行ってください。





花粉情報を提供しています



東京都健康安全研究センターでは、スギ・ヒノキ花粉情報をホームページにて提供しています。花粉症の予防や治療に御活用下さい。

●東京都の花粉情報

「東京都の花粉情報」では、都内12カ所の観測地点の飛散状況や花粉の観測値に加え、花粉症の原因となる植物の情報などを配信しています。

詳細は、下記 URL をご覧下さい。



東京都の花粉情報

URL <http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/allergy/pollen/index.html>

●2019年版「花粉症一口メモ」

花粉症の予防・治療の基本的知識や自己管理の方法を最新情報に基づいて簡潔にまとめた小冊子「花粉症一口メモ」を現在配布中です！

配布場所 東京都庁第1本庁舎3階北側 都民情報ルーム

※開室時間は、午前9時～午後6時15分(土・日・祝日及び年末年始を除く)です。
※その他、「東京都の花粉情報」HP上でもご覧いただけます。(pdf形式)

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/allergy/publications/print_allergy.html



発行：東京都健康安全研究センター

住所：〒169-0073 東京都新宿区百人町三丁目24番1号

電話：03-3363-3231(代表)

E-mail: www@tokyo-eiken.go.jp

H P: 東京都健康安全研究センター <http://www.tokyo-eiken.go.jp/>

感染症情報センター <http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>

都内の環境放射線測定結果 <http://monitoring.tokyo-eiken.go.jp/>

東京都の花粉情報 http://www.tokyo-eiken.go.jp/kj_kankyo/kafun